

中医鍼灸セミナー

講師：陳 雷 2024/03/24（日）

一、手三陽経の経絡弁証

（一）経絡弁証の概論

1. 定義 経絡学説（理論）に基づき、临床上に現れた症状と徴候を分析しながら病の所在する経絡と臓腑を弁明し、さらに発病の原因、病機、性質などを判断する弁証方法である。

2. 経絡弁証のまとめ

症状と症状の位置 ⇒ 病位の確定

3. 経絡弁証の要点

①「是主〇所生病」②経脈に所属する臓の病症 ③経脈が走行する場所の病症

（二）手三陽経の弁証

1. 手陽明大腸経の弁証 「是主津所生病」

歯痛、頸脹、目黄、口乾、鼻、喉痹、肩前、上肢前、食指痛

2. 手太陽小腸経の弁証 「是主液所生病」

噎痛、頷脹、難聴、目黄、首が回らない、頸、肩、上腕、肘、前腕の痛

3. 手少陽三焦経の弁証 「是主気所生病」

難聴、喉脹、喉痛、汗出、耳の後から肩、上肢、薬指痛

二、手三陽経の代表する経穴

（一）手陽明大腸経の経穴 商陽 合谷 曲池 迎香

（二）手太陽小腸経の経穴 後溪 養老 天宗 聴宮

（三）手少陽三焦経の弁証 外関 三陽絡 肩髃 翳風

三、鍼灸臨床の標本緩急

（一）標本緩急の定義

1. 緩急の定義 緩とは、病症の緩和状態を指す。 急とは、病症の急迫、重篤な状態を指す。

2. 標本の定義 ①一般の場合 ②中医学の範疇

（二）十二経脈の標本内容

（三）標本概念の応用

1. 診断方面の応用

2. 治則方面の応用

3. 処方方面の応用

四、更年期障害症の改善における鍼灸療法の弁証論治

（一）更年期障害症とは

1. **更年期** 閉経前の5年間と閉経後の5年間とを併せた約10年間
2. **更年期症状** 更年期に現れるさまざまな症状の中で他の病気に伴わないもの。
3. **更年期障害症** 更年期症状が重くなり日常生活に支障を来す状態。

(二) 更年期障害の症状

のぼせ、ほてり、多汗、冷え性、不眠、動悸、怒り或いは憂鬱になり易いなど
自律神経や精神方面などの失調症状

(三) 中医鍼灸療法の弁証

1. 中医学の病名 「閉経前後諸証」

2. **症状** 倦怠感 煩躁 焦燥 精神不安 眩暈 動悸 耳鳴り 不眠 健忘
ほてり 顔面紅潮 手足心熱 汗出 肩背腰部疼痛 など

3. **中医診察** ①望診 (神、色、形、態 ※舌診)

②聞診 (声)

③問診 (本人の感覚、気持ち、月経状態 ※十問歌)

④切診 (※脈診)

4. **弁証分類** ①病勢の緩急軽重 ■病症 ■病勢

②病因病機 ■病因 加齢老化・情志失調・久病・過労

■病機 精気血不足・陰陽の失調 (腎虚・肝気鬱滞・心脾両虚)

③正邪盛衰の判別 ■実証 肝気鬱滞・心肝火旺

■虚証 肝腎陰虚・腎陽虚・心脾両虚

④病位表裏の確定 【裏証】 臟腑・気血精

⑤病性寒熱の弁別 ■熱証 心肝火旺・肝気鬱滞・肝腎陰虚

■寒証 腎陽虚・心脾両虚

[まとめ] 腎陽虚・心脾両虚・心肝火旺・肝気鬱滞・肝腎陰虚

(二) 鍼灸療法の論治

1. **治療原則** 総治法：■安神培元 (肝心脾腎) ■気血の調和

弁証治法：●肝気鬱滞→疎肝理気解鬱

●心肝火旺→清肝瀉火、寧心安神

●肝腎陰虚→滋陰補肝腎

●腎陽虚→温補腎陽

●心脾両虚→養心健脾補益気血

2. 経絡腧穴処方 ①経脈の処方

任脈 督脈 腎経 脾経 肝経 心経 心包経 膀胱経 胃経 胆経

②腧穴処方

●基本選穴：神門 内関 太谿 太衝 三陰交 照海

●弁経選穴 【肝気鬱滞】肝兪 胆兪 膻中 期門 行間

【心肝火旺】心兪 肝兪 大椎 曲池 合谷

【心脾両虚】心兪 脾兪 胃兪 足三里 太白 陰陵泉 血海

【腎陽虚】腎兪 命門 腰陽関 気海 関元

【肝腎陰虚】肝兪 腎兪 命門 次膠

②治法選択 ●鍼刺法 直刺法 浅刺法 留鍼 瀉血法

●灸法 棒灸・隔物灸・温鍼灸

●拔罐法（吸い玉） 定罐法・移罐法

3. 鍼灸治療

①体位：臥位（俯せ・仰向け・側臥）

②補瀉： 患部→平補平瀉

弁証腧穴→補：気血臓腑の腧穴

瀉：祛邪の腧穴